

所長挨拶

今年度、胆振教育研究所所長を務めることになりました、登別市立緑陽中学校の野崎です。
本研究所は昭和25年に始まり、73年の歴史を有します。その間、現場の先生方が所員となり、学校訪問をして各校とともに学び、ともに胆振の教育の発展と充実に努めてまいりました。ご協力いただいた各市町教育委員会並びに関わっていただいた全ての方々に、改めて深く感謝申し上げます。

世の中の流れはとてはやく、学校に求められるものも様々に移り変わります。そうしたときだからこそ、時代が求める教育を実現するため、本研究所といたしましても、各校の実践をつなぎ、高めあう環境の構築が一層重要と感じています。所報を中心に、研究委託校・実践校や本研究所の取組を随時発信してまいりますので、各校や私どもにご相談いただくなど積極的にご活用いただき、それぞれの教育活動の充実に生かしていただければ幸いです。

皆様とともに胆振教育の振興のため全力で取り組んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。

所員紹介



所長
野崎 均
(登別市立緑陽中学校)



副所長
花田 啓光
(伊達市立伊達小学校)



事務局長
高橋 賢治
(登別市立鷺別小学校)



事務局次長
白井 賢司
(伊達市立伊達中学校)



所員
渡辺 隆之
(伊達市立伊達小学校)



所員
永井 久
(登別市立緑陽中学校)



所員
藤田 佳嗣
(伊達市立光陵中学校)



所員
黒川 知恵
(白老町立白老小学校)



所員
中村 章人
(登別市立登別小学校)



所員
甲谷 健
(伊達市立東小学校)

CONTENTS

- ▶ 所長挨拶・所員紹介
- ▶ 研究所の事業について
- ▶ 胆振教育研究所退任者挨拶

所員訪問

- 研究委託校・実践校との連携
研究委託校・実践校の研究にかかわって、共に学び、情報の提供を行います。

共同研究

校内研修・公開研究会への参加・協力

随時

胆振教育研究所

～所員研修会～
事業の検討・実施
所員 10名

～場 所～

カント・レラ (4～11月)
登別市民会館 (12～3月)
カント・レラの閉鎖に伴い、年度途中で登別市民会館に場所を移すことになります。

支えていただく9市町

- 登別市 ● 伊達市 ● 豊浦町 ● 洞爺湖町 ● 壮瞥町
- 白老町 ● 安平町 ● 厚真町 ● むかわ町

理 事 会

9市町教育長で構成。研究所の組織運営に関することを決定します。

運営委員会

各市町教育研究会の代表者、胆振教育局、へき地複式教育連盟代表者、社会教育代表者で構成。

各事業推進に向けた支援など、研究所と各市町や関係機関を結ぶ役割を担っています。
必要に応じて開催します。

合同研修会

本研究所の研究推進計画の説明や研究委託校・実践校の研究の概要、研修推進の課題・成果について交流していきます。

- 第1回 5月30日(火)実施
- 第2回 11月21日(火)実施予定

胆振教育 研究所 の 事業

企画・運営

- 夏季研修講座
「個別最適な学びと協働的な学びを効果的にするICT・端末の活用」
令和5年7月28日(金)
- 冬季研修講座
「基礎から学ぶLGBTQ」(仮)
令和6年1月9日(火)

現場のニーズに応じ、指導力の向上につながる講座を企画していきます。

広報活動

研究委託校・実践校の特色ある教育活動や優れた取組、本研究所の活動内容を分かりやすくお伝えしていきます。

教育いぶり 年2回

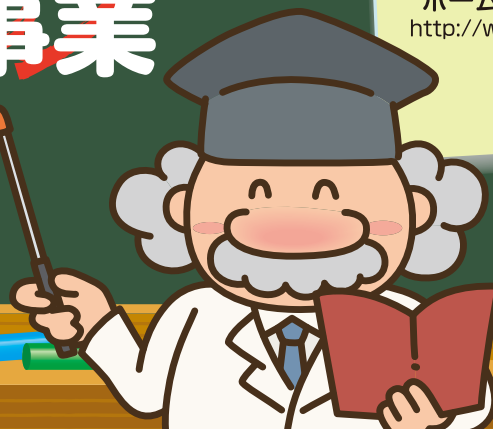
所報いぶり 年5回

ホームページ 随時更新
<http://www.iburi-education.jp>

作成・提供

- 刊行物・紀要
- ▶ 今日的な教育課題等を踏まえ、日々の教育活動に結び付く実践的な研究を進めています。
- ▶ 各校の実践により役立つような紀要等の発行に努めてまいります。ぜひ、ご活用ください。

2月発行予定





研究所退任者挨拶



前 所 長 坂 本 博 (登別市教育委員会)

胆振教育研究所には、副所長・所長として2年間お世話になりました。

コロナ禍で各校とも大変な中、研究会の開催や研究紀要への寄稿、実践紹介・アンケートへのご協力や研修講座への参加、所員の派遣や受け入れ等、様々な形でご協力をいただき大変感謝しています。集合することが難しく、研究所の事業もリモートや書面で行うこともありました。「できない」ではなく「どうすればできるか」を考えていくことは、日常の教育実践にもつながる大事なことだと強く感じました。

また、所員たちがそれぞれの学校業務を抱えながらも、真摯に研究所の仕事にあたってくれたことにも感銘を受けました。これからも胆振の教育発展のため、教育研究所が少しでもお役に立てることを願っています。

胆振教育局、各市町教育委員会をはじめ、各学校や関係の皆様、本当にありがとうございます。

前 副 所 長 永 井 修 (バルセロナ日本人学校 校長)

令和4年度は、2度目の研究所業務に、副所長として携わる機会をいただきました。

室蘭市と苫小牧市を除く胆振9市町からご推薦いただく研究委託校及び実践校とは、「共同研究員」という立場で、本研究所員が学校訪問を行い、共に学び、情報提供等をさせていただくという本研究所ならではの活動をさせていただきました。また、長期休業中に開催する研修講座へご参加いただいたり、各種刊行物の作成に関わって、原稿執筆やアンケート協力いただいたりと、皆様と共に胆振の研究を進めることができましたことに感謝申し上げます。

今後とも、本研究所が胆振の教育発展に寄与していく大切な機関として発展していくことを期待するとともに、私自身もここで学んだ経験を子どもたちのために生かしてまいります。

前 所 員 関 川 恭 平 (胆振教育局)

胆振教育研究所の所員として2年間お世話になりました。常に先進的な話題に触れ、他校の先生方と意見を交わすことができ貴重な経験となりました。管内の小・中学校の皆様には、学校訪問等で、胆振管内で進められている貴重な実践を多く参観させていただき大変勉強になりました。また、担当した機関誌いぶりや所報いぶりの発行に向けて協力いただき感謝申し上げます。

これからは、所員としての経験を生かし、子どもたちのため、さらに研鑽に励んでまいります。貴重な時間となりました。ありがとうございました。

前 所 員 石 井 芳 政 (伊達市立伊達西小学校)

胆振教育研究所には4年間の在籍でした。私が着任した頃はまだコロナ禍前で、研究所員として公開研究会や学校訪問に参加させていただくことが多くありました。一教師でありながら、勤務地を離れて研究委託校や研究実践校に赴き、共同研究者として研究に携わる場をいただけるということは、そうそうあるものではありません。普段とは違った視点で教育を捉え直し、視野を広げることができた、大変ありがたく貴重な機会でした。

胆振には、教育に対し真摯に向き合っている学校や先生が多くあります。そして、胆振各地で、日々確かに積み上げられている実践を、できるだけ多くの仲間知ってもらうこと、それが胆振教育研究所の役割だと聞いた時には、通常の業務との掛けもちは大変なときもありましたが、胆振の教育にとって必要なことをしているのだと自負することができました。

今後も研究所で学んだことや感じたことを生かしながら、目の前の職務に全力で取り組んでいきたいと思えます。在任中お世話になりました皆様、今まで本当にありがとうございました。

★所報で実践紹介をしてもよい学校は、胆振教育研究所までご連絡ください。